

知事随想



大阪府知事
橋下 徹

EV（電気自動車）を核とした産業振興 ～EVリーディング都市・大阪を目指して～

大阪・関西は、研究機関や生産拠点を始め、新エネルギー関連産業、中でもリチウムイオン電池に関しては、世界有数の一大集積地です。

このリチウムイオン電池の有望な用途とされているのが、EV（電気自動車）です。

EVは、これまでのエンジンを中心とした自動車産業の構造を大幅に転換する可能性を秘めています。

また、EV特有の部品や技術などは、多様で層の厚い府内ものづくり企業の優れた技を生かすことが期待でき、まさに、大阪産業をリードするポテンシャルの高い分野となっています。

そこで、平成二十一年六月に、EVを核とした産業振興を図るため、次の三つの取組みを展開する「大阪EVアクションプログラム」を策定しました。

まちづくり…インフラ整備等によるEV導入促進

ものづくり…ものづくり企業による技術開発等

ひとづくり…EVに関する人材育成等

あわせて、オール大阪の産学官とEVのエキスパートで構成する「大阪EVアクション協議会」を設立し、さまざまな取組みをすすめているところです。

スタートダッシュ～まちづくりを中心として～

EVを核にした産業振興をすすめるためには、まずはEVが安心して走れるようなインフラを整備し、初期需要の創出を図る必要があります。十五×八kmのエリアに急速充電設備二基あれば、安心してEVが走行できるという調査結果をもとに、府内に最低限必要な急速充電設備を二十基と算出し、整備をすすめています。現在までに、事業者等の協力も得ながら、急速充電器十七基と二百V充電器二基を整備したところです。

また、単に整備するだけでなく、この十九基をITによってネットワーク化し、携帯電話から充電予約可能な「おおさか充電インフラネットワーク」を世界で初めて構築し、平成二十二年三月から運用を始めています。

今後は、府内だけでなく、近畿圏、さらにはより広域に広げていきたいと考えています。

一方、より多くの方にEVの魅力を感じてもらい、購買層の拡大を図るとともにEVビジネスの定着を目指すため、EVを導入するタクシー事業者に対して支援も行っています。年度内には共通デザインでラッピングされたEVタクシー五十台が大阪の中心部を駆けめぐることになります。大阪からEVタクシーの発進です。

ほかにも、EVによる「日本版Autolib(ワンウェイ利用可能なカーシェアリング)」のシステム開発への協力や、原付一種保有台数全国一位の大阪で、事業用EVバイクの市場創出を図る「事業用EVバイクモニタープロジェクト」など、オール大阪で先進的な取組みをすすめています。

スピードアップ ～ものづくり・ひとづくり～

「ものづくり」分野は、大阪が得意とするところ。平成二十二年四月に、大阪府立大学の優れた研究人材を結集した「EV開発研究センター」を設立し、府内のものづくり企業等と大阪産EVの開発を目指したコンソーシアム形式の取組みを展開していきます。さらには、同センター等と連携しEV及び関連技術開発を支援する「大阪産EV開発プロジェクト」をすすめ、大阪ならではのEV開発をすすめていきます。

「ひとづくり」分野でも、大阪府立南大阪高等職業技術専門校の自動車整備科において、EVの整備に関する訓練を検討しています。

「EVリーディング都市・大阪」へ

このような動きをより大きなものにするため、平成二十二年十一月に、EVに関するさらなる技術革新や新たなビジネスの創出を図り、「大阪産EVイノベーション」を創出するための会員組織「大阪EVIS(EV Innovatos)」を立ち上げました。府内ものづくり中小企業等の活性化を強力に推し進めるとともに、新たな旋風を巻き起こしていきます。

さらに、この三月二十四日から二十六日の三日間、大阪国際会議場を舞台に、EV関連の国内外の研究者や企業関係者が意見を交わし、大阪から新たな時代の到来を国内外に発信する場、「大阪新エネルギーフォーラム2011」～EVが切り拓く新たな社会システムの追究～を開催します。大阪の知名度を一気に高めていきます。

こうした取組みを、次々に展開していき、低炭素社会の構築を図りつつ、EVに関する技術・人材・資金を大阪に集め、EVに関する技術やビジネスの世界標準をうみ出すような「EVリーディング都市・大阪」を目指していききたいと考えています。

